

# 青丘文庫 月報

No.144

99年12月1日

図書室 〒650-0017 神戸市中央区楠町 7-2-1 神戸市立中央図書館内

Tel 078-371-3351 相談専用Tel 078-341-6737

編集人 〒657-0064 神戸市灘区山田町 3-1-1 (財)神戸学生青年センター内

飛田 雄一 Tel 078-851-2760 FAX 078-821-5878

郵便振替&lt;00970-0-68837 青丘文庫月報&gt;年間購読料 3000 円

ホームページ <http://www.hyogo-iic.ne.jp/~rokko/sb.html>

## 巻頭エッセイ

### 震災5年目の神戸

飛田 雄一



#### ●5年という節目

阪神淡路大震災から5年がたった。この5年というのは被災地でも大きな節目と見られており、さまざまな「検証」の取り組みもピークを迎えている。これはまた被災地外から被災地への関心は「5周年」をもって終わってしまうのではないかという危惧の現れでもある。

私の職場である神戸学生青年センターは、激震地の神戸市灘区にあっても壁や配管に亀裂が入る程度の「一部損壊」であった。当然、会議室等の修復は終わっているが、倉庫の亀裂はそのまま今も残している。当時の全体的な地震被害かに比べれば微々たるものだが、それでも震災を知らない来訪者はそれをみて自然エネルギーの大きさに驚いている。数秒の揺れでコンクリートの壁に亀裂が入ったのだから、確かに驚きに値することではあうが……。

#### ●「留学生避難センター」

当時建物が「一部損壊」ですんだセンターは、主に被災留学生・就学生の避難所として用いられた。家を失った留学生らを数日宿泊させて順次下宿提供を申し出たボランティア家庭に送り出すという方針を立てたが、その通りにはならなかった。大学に近い家で受け入れることができる家は極端に少なく、また交通が途絶していた状況のもとでは平常時では問題にならない尼崎市でも不便な場所だったのである。センターには大阪、京都から多くの受け入れの申し出を受けたがほとんど実現しなかった。

自宅が「全壊・半壊」した留学生・就学生に3万円の「生活一時金」を支給する事業も、全国からの募金に支えられて767人(2301万円)にお渡しすることができた。改めてお礼を申し上げたい。その募金残金を基金としてアジアからの留学生・就学生5名に奨学金を支給する「六甲奨学基金」も発足して今にいたっている。

#### ●「移住労働者人権裁判基金」の発表

また震災時、高額の治療費を支払えないオーバーステイの外国人、死亡弔慰金を受け取れない短期滞在・オーバーステイの外国人の問題に新しいNGOネットワークの外国人救援ネットが取り組んだ。治療費問題は行政に打開策を取らせることができたが、弔慰金問題は厚生省の「有権解釈」に縛られた神戸市が最後まで支給をしなかった。やむなくNGOサイドで民間弔慰金をお渡ししたということもある。

外国人救援ネットは、震災の翌96年4月に恒常的な組織として再スタートして現在にいたっている。常設のホットライン窓口には日常的な結婚離婚にともなう在留資格問題、ときには日本人夫の暴力から逃れて来る外国人、あるいは不況下での解雇、それにともなう在留資格・未払賃金の問題などが持ち込まれている。震災に関連する相談は減ったが、別件で相談に来たブラジル人は全壊半壊の被災者に支給される自立支援金（75～250万円）のことを知らなかったというケースもある。救援ネットとしてはその申請のための作業をお手伝いし同時に多言語による広報を行政に要望しそれは実現しつつある。

ネットでも震災時に全国から寄せられた募金を原資として「移住労働者人権裁判基金」を99年4月に発足させ、さっそく外国人登録証不携帯を理由に拘束された中国人（福岡）の裁判に支給されている。

### ●「郊外型仮設住宅」の反省

12月3日の関西の新聞は「仮設、年内に解消、兵庫県調査、18世帯転居へ」と報道している。このような報道にはそれなりの感慨がある。しかし一方で仮設住宅での孤独死が233名にもなったという報道に接すると、仮設で苛酷な暮らしを思いうかべるし、また、その仮設さえも「あと××世帯」という報道にせき立てられるように出ていかざるを得ない状況を考えさせる。

仮設住宅に関しては大きな反省がある。仮設住宅は国が災害救助法にもとづいて設置するものだが、それは一戸あたり250万というお金が決められているだけでどこに建てるのかの規定はない。郊外に仮設住宅が数多く建てられそれがコミュニティー崩壊の原因となったが、「自力でここに仮設住宅を建てるからそのお金をよこせ」という運動こそが必要であったという反省である。

被災地にもっと仮設住宅が建っていれば、いまだに復興しない地元商店街も小さな商店もこの不況化でもう少し良い状況になっていたのでは、といま考えている。

### ● 震災と「神戸空港」

そんななかでも空港計画だけは着々と進められている。震災直後の混乱のなかでも笹山市長は空港建築方針に変わりのないことを表明した。昨年9月には神戸空港の是非を問う住民投票条例を請求する35万人の名簿を提出したが、市会は同年11月に「強行採決」でその条例案を否決した。そして今年9月13日には工事中を行なったのである。

推進派は90年の市議会での推進決議を盾にすべての市民が賛成していると強弁し、住民投票などは議会制民主主義を踏みにじるなどと宣伝している。しかし、72年には市議会で反対決議がなされ市長も議会で反対を表明したのである。もっともその宮崎前市長の引退のときその表明が「一世一代の不覚」と発言したが……。

政令指定都市では超赤字自治体の神戸市が、震災復興事業より採算度外視ともいえる空港建設につき進む姿勢に反対の声がでてるのは当然のことだ。「山、海に移す」という開発行政も「株式会社・神戸市」といわれた都市経営も転機を迎えているのである。

### ● 震災の「いま」

5年が過ぎた今でもセンター近くでも多くの空地が見られる。全国的に報道されることは少なくなっているだろうが、市街地の空地、閉店したままの商店は今だに被災地の風景なのである。

「震災以前のことが震災後に起こっている」という認識が被災地では一般的だ。どの老人がどこにいと分かっていた地域では老人の救出率は高かったが、そうでない地域では低かった。

震災以前の老人の置かれて状況がそのまま反映したのである。外国人も同じだった。

震災前に私はスリランカ人留学生の生活保護裁判の原告となって闘った。それは急病で倒れた外国人を救う最後の手段としてしての生活保護が適用されない、生存権が保障されていない外国人の存在を認めるのか否かという裁判であった。その裁判は最高裁でも破れたが、そのような状況が震災後の外国人治療費問題等となって現れたのである。

そして、震災前の開発一辺倒の神戸市行政が、旧市街地での大きな被害を「幸か不幸か」という神戸市幹部の発言にみられるような震災後の強圧的な都市整備を行なわせている。被災地にはいまでも多くの課題が残されているのである。

(※ 『働く人』というキリスト教系の新聞に書いた文章を転載させていただきました。飛田)

## 第182回 朝鮮民族運動史研究会 (9月12日)



### 大倉山周辺フィールドワーク 堀内 稔

青丘文庫のある神戸市立中央図書館は、大倉山公園の一角にある。大倉山の名称は、朝鮮とも関係の深い大倉喜八郎に由来しているのをはじめ、大倉山公園およびその周辺には「朝鮮」と関連したところが多い。

#### いしずえ・とこしえに平和の塔

大倉山公園内にある。説明によると、1990年4月に兵庫県統一メーデー実行委員会により物故した労働運動の活動家を偲んで造られたとなっている。戦後の活動家だけで朝鮮人はいないようだ。

#### 伊藤博文銅像の台座

公園の広場の手前に、金網で囲まれた大きな石の建造物がある。伊藤博文の銅像の台座で、銅像本体は太平洋戦争中に供出されて無い。銅像建設のいきさつは、初代兵庫県知事でもあった伊藤博文がハルビンで安重根に射殺された後、有志から銅像建設の話が持ち上がり、その候補地として諏訪山が決まったが、大倉喜八郎が諏訪山は市街地から離れていて不便だとして、自分が所有していた安養寺山を神戸市に提供したことによる。このことから神戸市はここを大倉山公園とした。

#### 大倉山公園碑

銅像台座から少し離れたところに、大倉山公園碑がある。この碑は銅像建立の後に神戸市が建てたもので、碑の内容(漢文)は銅像と大倉山公園ができた由来である。その中では伊藤博文は、兇豎すなわち邪惡な小僧によって薨じたとなっている。

#### 春畝館

大倉喜八郎の別荘で、伊藤博文がしばしば立ちより別荘から眺められる神戸の風景を楽しんだという。春畝館の名は伊藤の号による。春畝館は大倉山老人いこいの家として使用されていたが、阪神大震災で全壊し、現在その場所は更地になっている。

#### 荒田町の朝鮮飴売り

大倉山公園の西隣が神戸大学医学部および神戸大学付属病院で、その西側から湊川公園に至る一帯が荒田町である。この荒田町には「韓国併合」前後の時期に、朝鮮人飴売りが群居していた。朝鮮飴売りは、最も早い時期に神戸に在住した朝鮮人集団だといえる。

## 神戸電鉄の朝鮮人労働者モニュメント

湊川公園の地下にある神戸電鉄の湊川駅は、朝鮮人労働者がつくったものであるし、線路が地下から地上に出てすぐのところにある東山トンネルは、朝鮮人労働者が土砂崩れで犠牲になった。この東山トンネルのすぐ近く、会下山のふもとに、神戸電鉄(当時は神戸と有馬を結ぶ鉄道から神有電鉄といった)工事の犠牲者を追悼する朝鮮人労働者のモニュメントがある(神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会が1996年に建立)。

### 第218回 在日朝鮮人運動史研究会(9月12日)

「昭和館と山口県協和会事業ー『内鮮融和』から『協和』へー」  
布引 敏雄(省略)

\*\*\*\*\*

## ●青丘文庫研究会のご案内●

### 第220回 在日朝鮮人運動史研究会

12月12日(日)午後1時～3時

報告者 梁永厚

テーマ

「1930年代在阪朝鮮人のジャーナリズム」

### 第183回 朝鮮民族運動史研究会

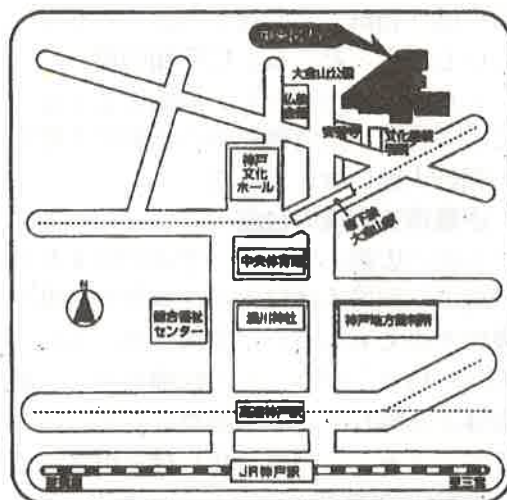
12月12日(日)午後3時～5時

報告者 水野直樹

テーマ「併合前後の朝鮮人「民籍」と「名前」  
ー「内地人ニ紛ハシキ姓名」の禁止ー」

※会場はいずれも青丘文庫(神戸市立

中央図書館内、地図参照)



研究会終了後、JR神戸駅北の「兵衛六／へいろく」で忘年会です。遅刻の方は飛田の携帯電話 090-9050-8227 へ。

## 編集後記

★ 六甲の紅葉も終わり、今日などは「六甲おろし」もかなりなものです。いよいよ1999年もあとわずかとなりました。2000年はどんな年となるのでしょうか。2000年もよろしくお願いします。(飛田雄一 rokko@po.hyogo-iic.ne.jp)